

一年を通して使用されているウール製品の取扱いについては十分に周知されているはずですが、いまだにフェルト化による収縮などの事故が発生しています。今回は、着用によるフェルト化を紹介します。

素材  
特性  
に注意

クリーニング  
処理方法  
に注意

監修／クリーニング総合研究所

### 衣類の状態

カーディガンの両脇下部分が毛羽立って、編目が詰まったような状態になっている。

含むとスケールが開く（図表1）。

この状態でもみ作用等の物理的作用が加わると、スケール同士が絡み合っただけでなくなり、毛羽立ちや収縮が生じる。この現象をフェルト化という。

### 原因

着用中の汗と、もみ作用によりフェルト化したもの。

### 事故の防止対策

現品の場合、着用中の汗ともみ作用に原因があるため、クリーニングでの抜本的な防止対策はない。クリーニングの受付で、カーディガンやワンピース、ジャケットなどの上衣の場合には脇下部

### フェルト化

ウールの表面はうろこ状のスケールで覆われており、水分を



カーディガン

分、ズボンなどの下衣の場合には股下部分などを点検して、異常がある場合には利用者と共に確認をすることが必要。

●洗 浄：ドライ溶剤中や製品

自体に含まれる水分が除去されていけば、洗浄によるフェルト化は生じにくい。ただし、たくて擦りの少ない糸を使ったザックリとした生地やアンゴラなど柔らかかな風合いの素材は、特にフェルト化しやすいため、ネットを使って短時間処理するなどの配慮が必要

### ドライクリーニングでのフェルト化防止対策

一般にドライクリーニングではフェルト化は生じにくいと考えられているが、実際にはドライ溶剤中の水分や製品自体に含まれる水分が影響してドライクリーニングでもフェルト化は生じる。これらに含まれる水分を除去することで、フェルト化は防止できる。

●乾 燥：水分さえ除去されて

いれば通常のタンブル乾燥が可能。ただし、温度が高すぎたり、処理時間が長すぎたりしないように注意する

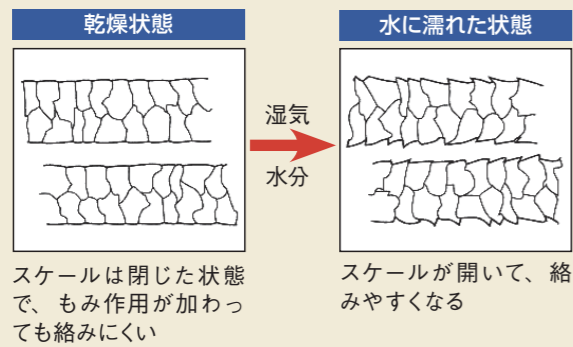
●ウエットクリーニング：ウール

や獣毛は、水に濡れてスケールが開いた状態であっても、もみ作用を加えないように処理すればフェルト化することはない。

●予備乾燥：製品自体に含まれる汗や水分などを予備乾燥で

除去する。ただし、タンブル乾燥機を使う場合には、タンブルの回転がフェルト化の原因になることがあるため注意が必要

図表1 ウールのフェルト化について



- 品 名…カーディガン
- 素 材…アルパカ70%、麻30%
- 取扱い絵表示…
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、加熱静止乾燥、スチーム仕上げ



両脇下部分が毛羽立ち、編目が詰まったような状態になっている

- 「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp>「お知らせ」→「衣料管理情報」